

菅又厚美・小川政弘作 「変わらざるもの」

青木宏美 (電話中)ん～～～。だからさあ。……え?! ううん、違うよお。わたしが言いたいのはねえ。…もう、じゃいいよ。あとでまた。うん、うん、分かった。うん。バイバイ。

(効果音) (受話器を置く音)

宏美(モノローグ) あーあ。どうしてなんだろう。みんなも高校入ってから1年たって、こんなにも変わっちゃったのかなあ。わたしはただ昔のように、みんなで集まって、いろんなところ行ったり、遊んだりしたいだけなのに。孝二に限らず、ほかの人もそうなのかなあ。紀之だけには変わってほしくないよ。あのままの紀之が好きなんだもん。だからほかにカレもつくらず、いつも紀之の写真見て。あー会いたいなあ。

ナレーション 電話の主は青木宏美。青春高校1年生。彼女には、孝二と紀之、妹子と芳江という中学時代からの友達がいて、芳江とは、同じ高校に通っています。5人は大の仲良しで、テスト勉強をするのも、遊びに行くのも、いつも一緒に行動していたほどの仲でしたが…。

ある日のこと——。

紀之 宏美、久しぶりじゃん。

宏美 え? 紀之! えええ——! 変わっちゃったのねえ。分かんなかった。

紀之 ほうか? 変わったか? 今さ、おれ、サーファーやってんだ。冬でもバリバリ波乗りやってよう、湘南とか来いよ。休みの日なんか、ほとんどいるからさ。

宏美 独りで… やってんの?

紀之 ううん。一応彼女連れてつたりしてんだけどさ。あいつには波乗りはさせない。危ねえしよ。あ、宏美も波乗りやらねえ? ボードに乗れるようになるまでなら、教えてやるよ。じゃまたな。急ぐんだ。バイバイ。じゃあー(遠ざかる)

宏美 バイバイ! (モノローグ)“彼女”…? 紀之のバカア。何が「あいつには波乗りはさせない」よ! 「危ねえしよ」だってえ?! それじゃ何でわたしには「やらない?」とか言って勧めるのよお。どういうつもりよお。高校が同じだかなんだか知らないけど、彼女だってすぐ別れるわよ! 紀之はわたしのものなんだからね! だけど紀之は… わたしに「好きだ」なんて言ったことないや。その子、「付き合ってくれ」って言われたのかな。どうしてえ? どうしてなのよお。紀之は昔のままだと思ってたのに。紀之…。

ナレーション もしかしたら、紀之への気持ちは、わたしの片思いかもしない。ここ数か月、連絡のなかった紀之に、ひそかに抱いていた不安が現実となって、宏美はショックをかみ締めながら、うつろな数日を過ごしました。そしてそんな気持ちを抑

えきれなくなって、芳江の家を訪れたのでした。

宏美 (泣きじゃくる)

滝沢芳江 ねえ宏美、宏美ってばあ。あんた、紀之が彼女をつくったから泣いてるの？
それとも…。

宏美 どっちもよ。だって、孝二に電話した時だって、「おれ、外国ミュージシャンのギ
グに、妹子と行くんだよね。それに、おれもバンド組んだから、練習もあるし。」
って、当分会えそうにないようなこと言ったあとに、「ヒロも何か始めたら？」つ
て言われて、「みんな今の生活のほうが大切なんだなあ」、なんて思ってさ。でも
わたしは、「自分はこのままでいいんだ。きっと紀之なら、分かってくれるだろ
うし、紀之自信も昔のままだろう」と思って、開き直ってたら、紀之、紀之まで！
それで、この2、3日、すっかり考え込んじゃってたの、わたし。

芳江 ふーん。どんなこと？

宏美 うん。「わたしが今一番しなきゃいけないことは何かな？」って。孝二の勧めた
音楽とか、紀之が夢中になってるサーフィン、恋愛。それからファッショント
カも考えたのよ。でも、どれもわたしには外見でしかないのよね。それでも探そう
と思ったの。自分のためになるよいこと、昔とは違って、古いものと縁を切れる
こと、変わること…、って。やっぱり、どれもわたしは変わらないのよ。変わ
ろうとして髪も切ったわ。でも、何か足りないの。でも、“変わらなくちゃ取り残さ
れる”って焦りが出てきて…。そんな時、「あ、芳江に相談してみよう」と思つた
んだ。如何すればいいの？ わたし、分かんない。気持ちばっかり焦っちゃつ
て。

芳江 そうか。そういうわけ…。(モノローグ・祈り) イエス様、助けて。宏美をどうやつ
て慰めればいいんですか？

ナレーション そう、滝沢芳江は、中学3年の時に、イエス様を信じてクリスチヤンになったの
ですが、5人の仲間には、宏美にさえ、そのことを表立って話してはいません
でした。なんとなく、このことで仲間外れになるのがイヤだったのです。でもす
っかり意気消沈している宏美を前にして、このチャンスに、少しでも神様の愛を
伝えようと思ったのでした。その時——。

(効果音) (電話のベル)

芳江 あ、電話。宏美、ちょっと待って。はい、滝沢です。はい、あ、わたし芳江です。
はい。……え？ 妹子が？ ウソ！

宏美 どうしたの？ 芳江。何かあったの？ 妹子が何？

芳江 あ、あのそれで妹子の具合は？ …ああ、そうですか。はい。はい。榊原病院
ですね？ 分かりました。はい、今すぐ行きます。それじゃ。

(効果音) (電話を切る音)

宏美 ねえ、だれから？ ねえ、妹子、どう… どうしたの？

芳江 妹子のお母さんから。妹子がケガしたらしいの。でもそんなにひどくないらしい。
妹子ね、孝二君とライブハウス行ったんだって。その時のお客の中のガラの悪いパンクスたちの暴動に巻き込まれて、チェーンとかパイプで腕ケガしたんだけど、意識はしっかりしてて、大したことないって。でも「できたら病院に来てくれ」って妹子が言ってるんだって。行きましょう。

宏美 本当に、妹子、平気なのね？

芳江 うん、平気よ。さ、行こう。

ナレーション 芳江は、今しがた宏美に話そうと思って出した聖書をしっかり抱えていました。

(効果音) (病室のドアをノックする音)

妹子 はい。

妹子 来てくれたのね。来ないと思った。学校変わってから、友達とかも変わっちゃうから。

芳江 どうして？ 学校変わったからって、変わるものないじゃん、わたしたち。宏美と一緒に飛んできたよ。大丈夫？ 傷、平気？

妹子 うん、平気。1週間もすれば退院できるって。

宏美 よかった。で、孝二君、来てないの？

妹子 あ、今ね、紀之んちへ行ってるところ。あたしのこと知らせに。連れてくるって、ここへ。

宏美 ほんと？ じゃ、またここでみんな会えるんだあ。

(効果音) (ノックする音)

妹子の母 妹子、吉村先生よ。

吉村先生 妹子、どうした？

妹子、宏美、芳江 (口々に)「吉村先生！」「先生！」「先生！」

吉村先生 ああ、宏美に芳江か。早速駆けつけたんだな。お母さんから、「間もなく紀之と孝二が来る」ってお聞きしたから、またお前たち5人がそろうわけだ。妹子、よかったです。

妹子 はい。

ナレーション 吉村先生は、みんなが中3の時の担任だったのです。芳江は、クリスチャンの吉村先生の導きで、イエス様を信じたのでした。

芳江 先生、ここへくる前ね、宏美と話してたの。あのね、宏美と紀之、仲良かったでしょ？ でも(宏美に)宏美、言っちゃうよ。いいでしょ？

宏美 ええー！ う、うん。

芳江 紀之ね、高校入ってからなんだか変わっちゃって、自分から遠いところへ行っちゃったんで、宏美、すごく落ち込んでたの。ね？

宏美 うん。でも紀之のことだけじゃないの。孝二も、妹子も、学校変わっちゃってほ

とんど会えなかつたでしょ？ みんなどんどん変わつて。自分の手の届かないところへ行つちやう。わたしだけが取り残されていく。そう思うと、寂しくて、むなしくて、頭の中ボロボロにして、一生懸命わたしも「変わろう、変わろう」って頑張つたけど、ダメなの。苦しかつたんだ、わたし。みんなは感じない？ 妹子も芳江も平氣なの？

妹子 平氣なわけないじゃん。あたしさあ、「もう自分は高校生なんだから、昔は昔、今は今、自分には自分の新しい生き方があるんだ」って、ムリに自分を納得させて、今までやつてきたの。でも心の中じや、時々ふつと、宏美や芳江や先生のこと考えて、なんか無性に懐かしくて、悲しくて、胸がキューンとなつた。だから、こうやつて、みんなが着てくれて、あたし…（涙ぐむ）

母 本当にこの子つたら、「皆に会いたい。お母さん、呼んで」って、そつぱっかり言ってたんですよ。

芳江 あのね、先生もいるから、わたし思い切つて言うけど、わたしがイエス様を信じてるのは、知つてるでしょ？ でね、この聖書の中に、わたしの好きな言葉があるの。（開く）「イエス・キリストは、昨日も、今日も、いつまでも変わつことがない」って。これ、わたしがバプテスマ、洗礼を受けた時、吉村先生が贈つてくれた言葉なんだけど、わたしがどんなに変わっていっても、落ち込んじやつてイエス様が見えなくなつても、イエス様の愛は決して変わらない。お前がどこにいても、どんな状態の中からも、帰つていける。イエスさまは心のふるさとなんだつて。

吉村先生 うん。芳江、よく覚えてたな。みんなの友情も、そんなであつてほしいな。妹子も、宏美も、芳江も、孝二も紀之も、確かにもう1年前と全く同じじゃない。同じであつちやいけないんだ。君たちは、それぞれ自分の人生を、前のものを目指して歩いていく。古い自分を脱ぎ捨てて、変わっていかなくちゃいけない。それは見せかけやカッコじゃないぞ。“ものの考え方”だ。より成熟した、責任のある大人としての自分を目指して、だ。だがな、その中で、“変わらないもの”、いや、これだけはどんなことがあっても変えてはいけないものも、あるんじやないかな？

ナレーション 宏美はその時、妹子や芳江と、お互に顔を見合つました。そして無言のうちに、うなずき合つたのでした——。

＜完＞